

発達支援コーチの取り組みについて

こんな思いで取り組んでいます

私たち川野保育所では保育理念の元、子どもたちの今の幸せと未来の幸せを願っています。発達の面から見た「今の幸せ」とは、保育者とのスキンシップや信頼関係で育む情緒の安定と、遊びや行事を通して自信や自己肯定感を育むことです。また「未来の幸せ」の為に、まず卒園して学校へ行く子どもたちの学ぶ姿勢を作ることだと考えています。学習・コミュニケーションにつながる発達の土台作りのため、遊びを通して子どもの可能性を引き出すお手伝いをしています。また職員も発達支援コーチの勉強に取り組み、子ども達と共に発達しています。

発達支援コーチとは

一般社団法人 ここからだ
～こころとからだの発達・学習支援～
子どもや大人の持つお困り感・困難さを手放せるよう、体遊びや動きなどを通して（体と心の発達を促す方法）を支援します。

発達支援コーチは治療を目的とした医療行為ではなく、人の可能性を引き出す教育的観点から行われます。発達の医療的専門的な知識がなくても「家」や「保育教育現場」で実践できるシンプルで効果的な手法です。

発達支援コーチでは、出来ないことを補うのではなく、出来ない動きの原因となることを（発達段階や原始反射などの現状を認め）遊びを通して楽しむことを大切にしています。



「原始反射」って何？

「原始反射」とは、「赤ちゃん時代にある反射」です。生まれたばかりの赤ちゃんは、自分で体を動かすことはできません。意思や判断を担当する脳がまだ十分に発達しておらず、脳幹で活動しています。脳幹に備わる、幾つかの原始反射という無意識的な動きで、外の世界に対応していきます。

「原始反射」はなぜあるの？

原始反射のはたらきは大きく2つ、(1) 生き残るため (2) 将来の学習や生活の土台作りのため、赤ちゃんが適切に安全に成長するのを助けています。例えば、呼吸をしたり、お母さんの母乳を飲んだりするために必要です。

～原始反射の統合～

私たちが成長するに従って、これらの原始反射は必要ではなくなり「卒業＝統合」します。つまり原始反射が「一つ後ろの座席に」下がり、より上位の脳がコントロールをするようになります。

～園内の活動～

- 平成29年より「全職員が資格取得」を目指し受講を開始
- 「朝の発達・コミュニケーションあそび」
- 毎月「発達会議」
- 平成30年度「親と子がハッピーになる発達講座」(外部講師をお招きして、年4回の講座を実施)
- 平成31年度・令和元年度「発達あそびの参観日」(参観日の中で資格を持った職員による講座を年4回実施)
- 11月、父母学級にて～発達支援コーチ全国大会 in 名古屋シェア会～を実施

現在、所長と9名の保育士が初級資格を取得しました。

発達支援コーチの産みの親である灰谷孝氏が作られた「発達するメガネ(イノチグラス)」をかけた職員がいます。自分に合ったカラーのメガネをかけて、保育を行っています。

参考文献…発達支援コーチパンフレットより